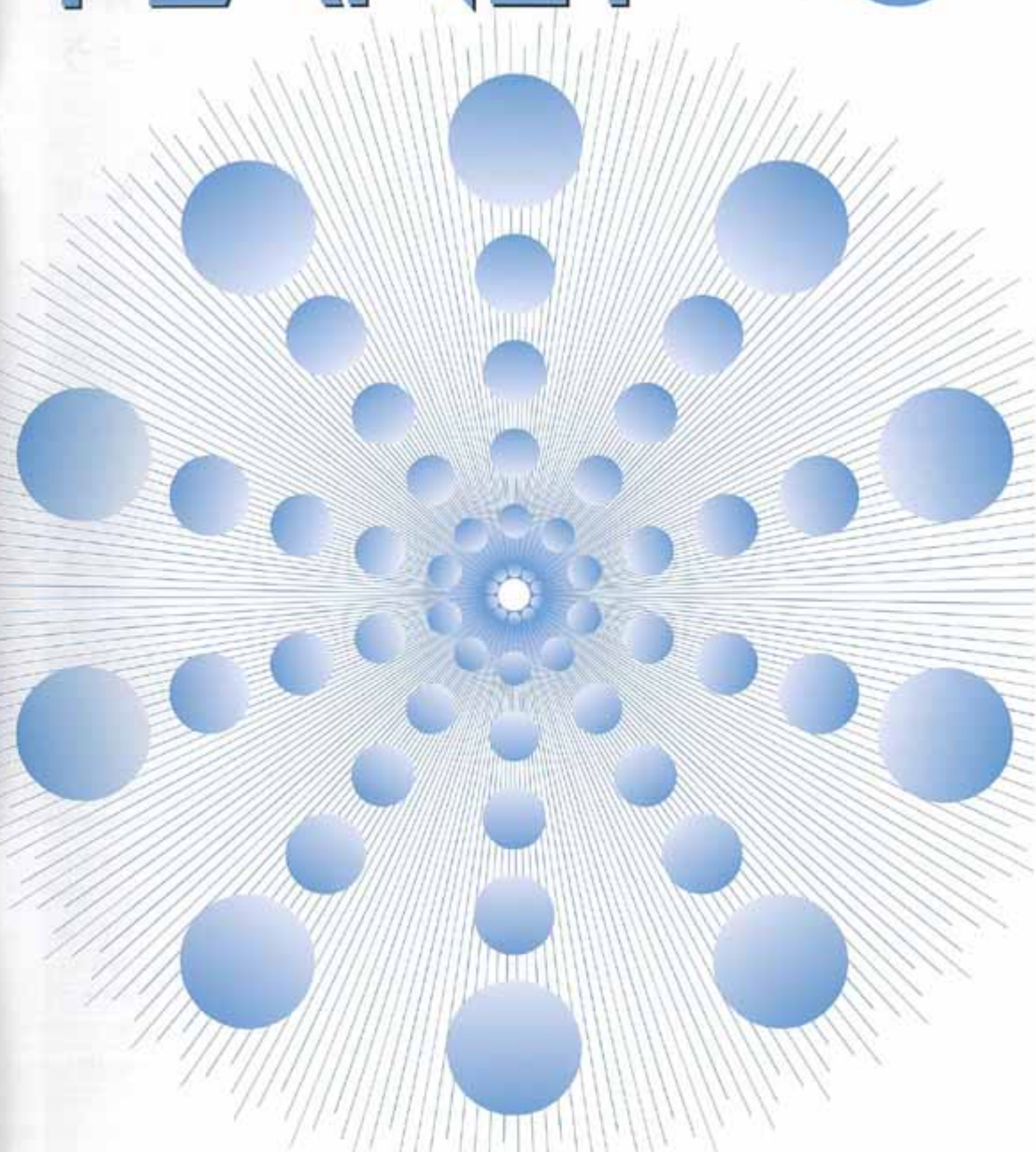


# PLANET

2006.8  
No.19

夏



ぷらねっと

富山県プラスチック工業会

(富山技術交流センター内)  
〒930-0866 富山市高田529番地  
TEL (076) 442-0309 FAX (076) 442-0310  
URL <http://www.konpla.jp> E-mail [info@kenpla.jp](mailto:info@kenpla.jp)

富山県プラスチック工業会



## 自助と互助をベースに共創の心を育て 会員連携で競争力を高めよう

富山県プラスチック工業会  
会長 羽場 光明

当工業会の会長に就任して、早くも一年が経過致しました。この間、活動の充実、強化と共に各加盟企業の経費負担の軽減を図る方向で活動を進めて参りました。

活動の面では、県当局との懇談の場を設定し、工業会の実情を（雇用人員約10,000名）認識していただき、低金利での企業運営資金の提供や、人材確保に対する要望など、かつてない関心を当局サイドに持ってもらうことが出来たと考えております。

また、工業会内部に対しては、“自助と互助”の精神をベースに、共創の心を育て、実質面における工業会としての役割のあり方について見直しを参りました。即ち、各企業の工業会加盟の意義を会員各位に再認識してもらうことが、工業会活性化のためのキーワードと考えるからであります。一企業だけではなし得ない難問であっても、会員のトータルパワーを結集していけば、解決の糸口は見出せるものと認識するからに他なりません。

これまでの主に技能検定や親睦行事に重点をおいた活動に加えて実施した、県金型協同組合との交流や、関係6団体共同開催による新年互例会の開催なども新しい試みとして、各会員及び関係諸団体からも好感を持たれ、工業会の位置付けを後押しする一助になったものと考えてお

ります。

昨今の原油高や関連事業の急速な海外流出など、私たちを取り巻く環境は、まだまだ厳しいものがあり、本当の意味での生き残りが問われる時期ということではありますが、日本で最も中国に近い富山県の優位性を十分取り込み、ワールドワイドにおける対他競争力を高めていくことで、逆境を乗り越えることが出来るものと確信しております。加えて、当地における金型製作関連技術の水準の高さは世界に誇れる技術ブランドとして定着していることを合わせ考えれば、世界のベンチマークとしての強みであります。これらを活かし切っていくことが、生き残っていくための必須要件であると考えております。

金型材料や原材料の共同購入の検討や輸送の共同便仕立てなど、仕組みとして確立していけば、更に競争力を高めていくことは可能であり、その実現に向けて今後とも鋭意継続検討を進めてまいりたいと考えております。仲間と競争する時代から、仲間と連携する時代へと舞台もグローバルに大きく様変わりしてきております。連携のあり方や、技術ブランドの更なる高揚など、具体的な取組み内容について、又、皆様方とご相談をしながら進めて参る所存であります。

皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。巻頭の挨拶とさせていただきます。

## 第45回

## 通常総会開催

富山県プラスチック工業会 第45回通常総会



第45回通常総会は6月5日（月）午後3時から富山第一ホテルにおいて開催された。

はじめに羽場光明会長より開会の挨拶があり、その中で業界は原油高騰の影響やグローバル化の進展など厳しい環境の中で生き残りをかけて企業経営に当たらねばならないが、工業会運営においては相互研鑽、事業戦略支援、産学官連携、身軽な会運営、人材確保、育成を推進し、県など行政にはプラスチック業界の果たす役割を今まで以上に認識していただき、県内大学におけるプラスチック研究や経営支援施策強化が必要、また会員企業にはグローバルな視点での付加価値経営が求められており、工業会においても役割を明確にしていくためにも皆さんの積極的な会の事業参加と知恵や意見を忌憚無く聞かせていただき、充実した運営に努めていきたいと述べたあと、羽場会長を議長に選出して議案審議に入った。

議案は第一号議案「平成17年度事業報告及び収支決算報告の件」について事務局が報告内容説明を行い引き続き金森米男監事が監査報告を行ったあと審議が行われ議案を諮った結果、原案通り可決承認された。

次に第二号議案、「役員一部変更の件」について新常任理事候補2名、新理事候補4名について諮った結果、原案通り可決承認された。

引き続き、第三号議案「平成18年度事業計画（案）

及び収支予算（案）について」事務局が内容説明を行ったあと審議が行われ議案を諮った結果、原案通り可決承認され総会審議が終了した。

18年度事業計画では懇親の事業見直しと経費削減に取り組むことや共創の理念のもとで新たな事業として業界における若年人材確保支援、人材育成事業の推進、産学官連携先進技術研究検討、ものづくりを通じた地域貢献、技術開発・改善発表会を計画している。

その後、行われた報告事項では平成14年に設立した富山県プラスチック事業組合についてその役割を終えたことから同組合について平成17年度を以って解散すること、また、厚生委員会を総務委員会に統合することなどが報告された。

総会終了後、第2部として金沢工業大学工学部高度材料科学開発センター教授の新保實氏より「超臨界流体を用いたプラスチック成形加工技術の現状」と題して記念講演があった。

引き続き第3部として懇親会が開催され、はじめに羽場会長がプラスチック成形業を取り巻く環境の厳しさを指摘し業界の結束を呼びかけた開会挨拶を行い、富山県商工労働部長藤木俊光氏が県内プラスチック業界の果たす役割に期待する祝辞乾杯のあと歓談に移り宴は各円卓を囲み賑々しく相互親睦を深め合うなか、斉藤副会長のユーモアたっぷりの中締めで盛会裡におひらきした。

## 「超臨界流体を用いた プラスチック成形加工技術の現状を語る」

金沢工業大学工学部

高度材料科学開発センター教授 新保 實氏



平成18年6月5日(月)  
於：富山第一ホテル

講演ではプラスチック成形品に臨界温度、臨界圧力以上の状態、つまり超臨界流体（液体と気体の性質を有する流体）として炭酸ガスを導入することで超微細な気泡を有する発泡体の成形技術並びに超臨界流体の応用技術の現状と将来性について話しがあった。

超臨界流体の特性を生かしての超微細気泡径を有するマイクロセルプラスチックでは下記の特性と可能性を有している。

- ・軽量効果、形状安定性、成形サイクルを向上させながら強度を維持できる。
- ・金型に対する転写性向上
- ・PET材における光の反射性に優れた特性
- ・従来の化学的発泡に比べ、環境保護性に優位性がある。
- ・誘電率が空気に近づく電気的特性を生かしての低誘電材料開発への期待。

現状では日本製鋼所始め、何社かの成形機メーカーでライセンスを取得して成形性向上に取り組んでいる。成形材料メーカーにおいても発泡性向上に取り組んでいる。

また、溶解性特性を生かした新たなコーヒー抽出、殺菌性向上特性を漬物に应用、あるいは繊維に染料が

染み込み易くなる利点を有する等々、樹脂以外の分野でも産学連携で研究開発が進められている。さらにプラスチックの粘弾性特性をベースに目薬容器の使用頻度に伴う液洩れ研究を産学連携として推進中とのことで、会員の皆さんも今回講演内容に限らず、ご相談されては如何ですか。

新保教授は発泡体における強度性能向上についても鋭意研究中で今秋にはアメリカの学会で研究成果の発表を行うとのことで期待されています。

### 講演におけるおもしろい話題紹介

「我々の学生時代によく「卵が先なのか、鶏が先なのか」というお話をされた経験があるのですが、最近の学生はあまりしなないみたいです。我々のときは「卵が先だ」と言う人もいれば、「鳥がいないと卵が産めない」などいろいろ議論されていましたが、この回答が先週イギリスの学者3名によってようやく解明され、卵が先だそうです。遺伝子工学的には生きている生体の中で突然変異はありえないそうです。卵の場合は可能性があるのですが、卵が先にできたというのが今の結論になっています。」

## 私のターニングポイント

三協化成株式会社 代表取締役社長 高畑 勉



社会人としての私のスタートは総合電機メーカーで「浄水プラント設備」の自動制御装置の設計技術者としてでした。河川の水を引き込み、これを飲料水にする設備の中央監視室制御操作の設計製作です。先輩諸氏や上司からきびしい指導を受けながら技術的研鑽はもちろん 見積、原価計算、利益管理等の製造メーカーのエンジニアとして徐々に腕を上げていました。

そのような状況下で自分の進路を大きく変える時をむかえました。それは自分の生まれ故郷である高岡の企業に転職することにしたことです。35歳の時でした。その企業とは三協アルミです。新職場で1年余り過ごした後、創業者の竹平会長から直々のご指導を受ける機会に恵まれました。当時竹平会長はすでに古希を経ておられましたが豊饒として我々若輩者に対しても厳しく指導されました。それが私のその後の人生に大きく役立っており、またその間の事を今も、とても誇りに思っています。たくさんの指導を賜ったのですがその中でも今日なお鮮明に思い出されるのは、

- ①仕組・設備は「十年先」を見通して考えよ。
- ②いかなる設備でも「完成と同時に陳腐化」が始まる。
- ③常に設備への再投資は不可欠、それへの利益を確保せよ。
- ④設備（仕組）が巧く行っているか否かは、「物の流」をみれば判る。
- ⑤物は「必要な時に必要なだけ」造る事。等でした。

まだまだ沢山の指導を受けていたのですがこれらの事を常に念頭において今日の経営の中に活用すべく努力をしているつもりです。

これらの指導に基づいて当時、私にとっては大きな「企業改革」をさせて頂いたと思っています。「必要な時に必要な量だけ」に基づいて商品流通の方式を変えました。全国に配置されていた各々の流通センター向

へ毎月、「月末集中出荷」を繰り返す物流状況で、出荷業務はまことに効率の悪い状況でした。また、在庫水準が不十分でいつも「在庫切れ」が発生し必ずしも良いサービス水準ではありませんでした。この一見良さそうで良くない中途半端な「流通センター」を真の流通サービス実現のために、大規模流通センターへ流通在庫の集中化を図ることにより解決する。それが新湊での流通センター創設となったのです。製造拠点側に集中在庫して出荷効率を上げ従来の流通センター以上の機能でそれを補うことにしました。流通在庫を顧客近くから工場へと遠ざかる事に対して物流サービスが低下すると販売部門からの不安視された物理的距離は「夜間の移動」で翌朝には各物流センターに届ける事で解決としました。

もう一点、受注情報を「より早く、より正確に」入手する事により流通サービスの向上に寄与する事にしました。それは受注オンライン端末機を全国の代理店サイドまで拡大することです。

この「物の流れ」と「情報の迅速化」の徹底した改革により、今ではごくあたりまえとなった状況を今から20年前に着手していたのです。これらの改革は当時の経営トップの強い指導力があつたからこそ実現できたものと今さらの様に感心している次第です。

今日、私が弊社で特に力説していることは「在庫標準（基準）を下げる」です。

池の水面を下げれば美しい湖面から次々と水面下にあった汚い物が露見されるように、自社の弱点（改善すべき点）が判明してきます。在庫は改善すべき点を先送りして永遠に問題解決点を見失ってしまうのです。

私は実に良いとき（必要な時）にすばらしい人（必要な智慧）に会えた（得る）と今さらながら人の出会いに感銘しています。以上が私にとって最も大きなターニングポイントとなった点を御紹介しました。



高陵プラスチック工業株式会社

〒933-0824 高岡市西藤平蔵字内川原1312  
TEL(0766)63-5656(代)  
FAX(0766)63-5658

SAITO

Plastics Molding / Package & Parts

株式会社 齊藤製作所

富山県富山市下大久保61 〒939-2251  
☎(076)468-2727 FAX(076)468-3911

三光合成株式会社

SANKO GOSEI LTD.

〒939-1698 富山県南砺市土生新1200  
1200 HABUSHIN NANTO CITY TOYAMA 939-1698 JAPAN  
TEL 0763-52-1000 FAX 0763-52-1925  
http://www.sankogosei.co.jp/

JYOTO

トータルサインシステム

株式会社 城東

代表取締役 奥野 忠正

本社 〒934-0042 富山県射水市作道591 Tel.0766-84-2030  
東京営業所 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2丁目1番 Tel.03-3863-8530

物づくりの工程内での不良でもマーケットクレームでも、これらはコストアップの大きい要因の一つであると共に、場合によっては企業の信用にも関連してくる重大な問題でもあるので、これらの発生の未然防止は避けては通れない重要なテーマである。選別なしでの不良ゼロとか、直行率100%などはさまざまな企業の経営方針の1つであり、またクレーム発生件数の実績が表示され、クレームゼロを目指して努力しようなどの方針提示もよく見る光景である。しかし現実にはこれと程遠いのが実情である。これは未然防止の進め方の方法・道筋が確立されていないとか、決められたことの道筋が徹底されていないためであると思うが、原理（理論）と原則のレベルの問題でもある。原理（理論）は普遍的なものであるからその気になれば誰でも同じように習得することができるが、原則はさまざまな事例研究を通じて構築された定量的技術標準であり、企業努力の結晶でもある。この定量化された原則のレベルが未然防止に

## 成形不良撲滅への原理・原則

大きく関与するが、原則を検証する原理・理論とのドッキングも未然防止のためには欠かせないものであり、理論か勘かなどと言う二者択一の問題ではないのである。先人たちが成功・失敗を繰り返して築き上げた定量的原則は貴重な企業財産であり、不良やマーケットクレームの原因究明・解析に際しては先ず検討の阻止に載せるべきものであるが、技術伝承されずに折角の原則が水面下に沈み、未然防止に役に立っていない残念な例は枚挙に暇がない。

(1) 不良対策に貴重な原則が重視されないで基本的な解決に至らないとか、設計・試作段階で未然防止に活用されなかったりなどで技術財産の活用が十分でない例もある。例えば成形品が破損すると破面解析による原因究明が行われることが多いが、フローマークが主原因ではないかと推定される時は、破壊発生点まで伸びているフローマークを小さくする対策を優先しなければならないと先人の原則は教えている。それはフローマークがウエルド的に働くからであり、ウエルド

は破壊の主要因の一つであるからである。不良対策でよく行われる特性要因図を書くことはそれほど難しいことではないが、挙げられた要因の中から優先的に検討しなければならない寄与率の大きい要因を選定するためには、レベルの高い原理・原則が必要となるのである。勘だけに頼らず、また理論・理屈のみに走らず、原理・原則と培われた勘の両輪が円滑に回ることの重要性の理解と実行が不足しているように思う。これなくしては不良の未然防止は出来ないと心得なければならない。

(2) 成形品の品質は樹脂・設計・成型・成形加工・評価の総合力の産物であるから、この中でのレベルの低い技術分野での足を引っ張られて不良が発生するのであるが、物づくりの現状はこれらのバランスがよく取れているとは言えない。

例えば樹脂メーカーも設計者も射出成形技術に関連する事項については問題が多い。樹脂メーカー成形の量産経験がなく何

が不良発生での寄与率の高い樹脂特性かの理解が少なく、設計は加飾・組み立ての2次加工に関する形状設計は忘れないが、射出成形についてはモールドへの図面の丸投げが多いのが実情である。ここに不良の未然防止を阻害する要因が潜んでいる。この改善なくしては直行率100%の物づくりは不可能と言えるのではないかと思う。例えば熱安定性は熱分解だけではなく、分解する前にさまざまなものが揮発して不良発生要因となるが、これらの樹脂の性質は依然として水面下にあり、不良が発生してから知ることが多いのは、何故か疑問を抱くのである。不良の未然防止のためには樹脂としてこの点に留意するようにとの商品取扱説明書がつけられてしかるべきものであろう。

転ばぬ先の杖が必要で、転んでしまっただけからはその修復の時間がかかるのである。成形機周辺機器の進歩が樹脂のこの問題点を如実に明らかにして来ている現実がある。

(提供：プラスチックニュース社)

TAKAGISEIKO

革新を続けるプラスチック製造企業

株式会社 タカギセイコー

代表取締役社長 羽場 光明

本社/富山県高岡市二塚322-3 ☎(0766)24-5522代



TOYOKAKO

優れた技術と確かな品質でお応えします。

東洋化工株式会社

取締役社長 中田 守人

〒936-0857 清川市下新説1350番地  
TEL(076)475-2125 FAX(076)475-9471

## 最近の中国経済事情と 富山県との対中ビジネスの一端



環日本海経済交流センター 貿易投資アドバイザー  
大連大学 客員教授 野村 允氏

### 1 中国経済概観—山高ければ谷深し—

WTO加盟後における中国経済の発展ぶりは著しい。GDPの平均年率は9%、貿易額は3倍増、対中外資は年600億ドル、外貨準備は8000億ドルを超えた“山高ければ谷深し”の諺の通り、中国経済はその発展と裏腹に多くの矛盾、課題が噴出してきている。“格差”問題、エネルギー問題、環境問題、官吏の汚職などである。中国政府は、“11・5計画”の中で、これまでの発展モデルを修正し新しい成長方式へ転換をはかり、“和諧社会”の実現を提唱している。当面、中国経済は人民元の去就が注目されるものの、小さな起伏を見せながら安定した推移を示すものと推測される。

### 2 富山県の対中ビジネスの現状と課題

(1) 貿易取引…好調な中国経済を反映し、また在中富山県企業の事業活動の変化に影響され、2005年の富山県の対中貿易は694億円（前年比28%増）で、対岸貿易の36%を占め、第2位（第1位ロシア）を確保している。主要輸出品目は機械、非鉄金属、化学品であるが、化学品の中でプラスチックが前年比26%増を示した。主要輸入品目は非鉄金属、機械、雑製品であるが、雑製品の中でプラスチック製品が前年比37%増となり、スライド・ファスナーとともに大きなウェイトを示している。

(2) 企業進出…2000年以降、中国のWTO加盟を機に、対中投資ブームが生じ、輸出加工型よりも内販

型投資、サービス分野への進出が増加してきた。既進出企業でも、現地生産体制・サービス機能の強化、工場の分散化など多様化が窺われる。富山県企業の対中進出は約170件（事務所も含め）、主な進出地域は長江・珠江デルタ地域に最も多く、次いで東北（大連）、華北である。業種的には機械・機器、電子機器、成型製造、繊維関連が主体であるが、最近サービス業の増加も目立つ。プラスチック関連企業は約20件で、長江・珠江デルタに集中しているが、最近、工場の分散化、香港に販売拠点を開設するケースが目立つ。また、在中韓企業との取引・提携を進めている企業も胎動し注目されている。

### 3 今後の課題

—現地の変化を把握し、現地のニーズを先取りする—

日本経済新聞社のアンケート調査によると、在中北陸企業の大半は事業活動に成功しているが、今後事業の拡大を意図している企業は7割を占める。反面、中国リスクの増大を指摘している企業も5割強存在し慎重さも窺われる。今後、富山県企業が対中ビジネスを進めるに際し、中国市場のみにとらわれずより幅広い国際的な視点に立って戦略をたて、情報・人的ネットワークを活用し、現地視察を通して現地の変化を把握し、ニーズを先取りしていくことが求められているといえよう。

株式会社トヨックス

〒936-8585 富山県東砺波市前沢4371  
TEL 0765-52-3131 FAX 0765-52-4245  
<http://www.toyox.co.jp>

阪神化成工業株式会社

〒939-8183 富山県小中163番地  
TEL(076)429-1865代  
FAX(076)429-6042  
URL <http://www.hansin.co.jp/>

異業種視察シリーズ

アイシン精機(株) 安城工場視察レポート

技術委員会副委員長  
(株)タカギセイコー  
岡田 哲朗

◆異業種研修視察先選びと戻り寒波の中、安全バス運転で出発

富山県プラスチック工業会の異業種研修視察として、県外訪問としては2社目の視察が実現した。今回は愛知県の超優良企業でトヨタグループを代表する自動車部品メーカーであるアイシン精機株式会社様に貴重な視察訪問をさせていただくことができた。視察訪問先を探す過程では当工業会が訪問希望先様と同業種であることから何かと気を遣われることがあるなかで、今回は県内のアイシン軽金属株式会社様の絶大なご尽力ご支援を得て実現できたことを、まずもって厚く御礼申し上げます。見学させていただいた事業所はシャワートイレや業務用ベッド、ガスヒートポンプなどの住宅用品を製造する安城工場である。そこはトヨタ生産方式の真髓が随所に見られたすばらしい工場であり、参加された企業の方々には数え切れないほどの感動と収穫を持ち帰ることができたものと思う。

2日間の旅程で出発した4月21日(金)は、折からの戻り寒波に東海北陸道の山間部で早くもみぞれに遭遇、バスガイドさんのスタッドレス着用のアナウンスに皆様の安堵の声が聞こえた。さすが人命を預かるプロドライバー、荘川PAで見た10cmほどの積雪を見た時は改めて“安全第一”の大切さを実感した。道中では充分なキャリアを積んだ上に、他者の数倍もの個人的な勉強を積み重ねたと思われるガイドさんの機微詳細にわたる案内に、プロ意識と年輪の素晴らしさを堪能した。

◆アイシン精機安城工場

多品種効率生産へ現場力結集と継続・自助努力

いよいよ目的地の安城工場に到着してまず驚かされたのは、まわりが住宅地で工場内も決して広くない、我々の大型バスが待機するような特別なスペースもないという環境であった。結局、このような事業環境が今回の訪問視察で学んだキーワードである。

まず、辻副工場長様、大蔵グループマネージャー様に会社と事業所のご説明をいただいた。93%が自動車関連事業の中で、約7%弱、年商430億円の住宅関連事業においてどのような苦勞があり、それをどのようにして解決し、取り組んでおられるかを懇切丁寧に説明していただいた。扱っているそれぞれの商品群のマーケットも、それらが発注されるパターンも全く違うものを同じ工場生産すること自体が、苦勞をもたらす宿命であるとのこと。それらは多品種のうえに季節の受注の波、1週間単位での受注の波があることを前提に、多能工化と自社で効率の良い加工機を独自に発案工夫・製作して活用することが収益を生み続ける根拠を支えている。外国の作業者を採用していないし、今後もその予定はないと断言された施策に、現場力向上の強い意思が感じられた。会社の中、事業所の中に進化し続けるプログラムが脈々と育てられている。まさに継続は力、企業の収益創造の根源であることを改めて考えさせられた。

しかも、このような説明をしていただく論調が常にわかりやすい事例を引用されていたことや、アイシン精機様の成功事例を我々に強く押し出されなかったことが印象に残った。言葉の端々に、成功事例をそのまま丸呑みにせず、よく考えて自社の最適解を追求し続けて下さい、というご配慮がうかがえた。非常に深いご配慮と思った。

次に、2組に分かれて工場を案内していただいた。工程や設備機器がコンパクトに配置され、生き物のように有機的にリンクしていた。それぞれの工程間では造ってはいけないものを決して造らないように簡単な道具が活用されていた。むだなことはしないという、当たり前のことが“絶対”に守られるように仕組みが創られている。また大型成形機や加工装置は驚くほど古いものを丁寧に手入れして大切に使っている。ロットサイズが大きく変動しても、工程や作業を自在に変えて小人数で製品が造れる柔軟な工場は、まさに“強さ”、“たくましさ”を感じる。自社でそのような改造や設計ができる人財の育成に経営資源を投入し続ける施策(人財育成の投資)が利益を生み、その利益がまた人財の育成に繋がるという、強力なサイクルが回り続けている。

まだまだこの紙面では書ききれない収穫がたくさんありますが、個々具体的な数字や内容を記述するより、むしろ“やるべきことを飽くなきまでやり続ける”ことの大切さを、参加諸氏が重々感じられた貴重な視察であった。

時間の経つのも忘れて質疑応答が続いたが、辻副工場長様の質問があればいつでもお受けしますという温かい言葉を胸にしまい、次の旅程の旅程であるセントレア空港に向かった。

◆“したたかさ”と魅力”セントレア空港

最新のシステムと民間の英知を集めて開港したセントレアの威容と乗り継ぎの便利さ、そして空港をひとつの観光スポットにした“したたかさ”と魅力”を実感して宿泊先に向かった。宿では初めて言葉を交わす方々や、旧知の方々にぎやかな会話が遅くまで続いた。平素の仕事や生活の場から遠く離れることで、将来への期待や夢を語り合う場としておおいに盛り上がった。

◆ものづくり王国愛知

創造と英知の軌跡「産業技術記念館」と「ノリタケの森」

翌日は名古屋駅近くのトヨタテクノミュージアム、「産業技術記念館」と「ノリタケの森」を視察した。産業技術記念館では豊田佐吉翁が自動織機を発明して日本の繊維産業を興した創成期の機械装置や、トヨタ自動車の初期のクルマと製造工程や機械装置が展示してあった。自動織機は今でも稼働して糸の加工ができるし、それ以前の時代の手紡ぎの道具が多種多様、大切に展示してあった。中国から来られたいくつかの団体も、映画撮影用カメラクルーを同伴して熱心に見学をしていた。

のりたけの森では、日本製陶器が生まれた地の歴史と製造工程や絵付けの職人の実演を堪能することができた。ノリタケミュージアムでは国宝級のクラシック陶器(カップや皿、ポットなど)が展示されており、そのたたくまは眩しすぎるほど輝いていた。

充実した2日はあっという間に過ぎてしまったが、日本の国力を支えているといっても過言でない中京地区のパワーと歴史、それを育て続ける知恵の偉大さを参加者全員が感じ取られたと思う。来年には東海北陸自動車道が全線開通して、富山県はこの希望あふれる中京地区の一員になっていく。富山の良さと粘り強さを発揮して、ぜひとも興隆の流れに乗りたくと祈念する。お疲れ様でした。

富山県プラスチック工業会主催

高卒人材懇談会 開催

平成18年6月28日(水)高岡文化ホールにおいての高卒就職者を出している中沖高岡商業高校長、林高岡工芸高校長など、高岡射水地域7校の高校長等代表と林高岡職安所長、当会から羽場会長、延澤・高橋副会長他高岡地区の理事役員7名が出席して開催された。懇談会では冒頭、羽場会長より高岡地域はアルミ業界の関係もあり、経済面で今ひとつの元気のない状況です。プラスチック業界では海外展開企業もかなりあるが派遣人材不足である。向学心の強い県民性であり、県外でそのまま就職することから郷土に居ついてくれる人材が少ないので若者にとって魅力ある地域社会、まちづくりも必要なことであるとの挨拶があり、懇談会に入った。

懇談会内容として

1. 高校・企業・職安から人材育成事例等の発表があった。
  - ①林高岡工芸高校長より「当校におけるものづくり人材育成活動について」と題して、ものづくりスペシャリスト育成にチャレンジする意気込みと取り組みを発表。
  - ②(株)タカギセイコー東新湊工場長より「若手人材定着化への取り組みについて」と題して、意欲を引き出す技能・技術能力開発への取り組みを発表。
  - ③林高岡職安所長より直近の「高卒者就職状況について」発表。
2. 県内プラスチック成形業界のものづくりについて、今春、制作し、県内高校・大学・職安に配布したDVDにて紹介。

紹介後、各高校長よりプラスチック成形品ものづくりや業界内容がよくわかる。また、プラスチック産業は身近な仕事として生徒が興味を抱くとの評価があった。

3. 最後に意見交換を行った。ほとんどの出席者から活発な意見が出た。主な意見として
  - ・インターンシップ事業について企業サイドから期間や業務内容等での問題点が指摘され、学校・企業相互の理解協力が必要とされた。
  - ・生徒は就職するにあたり、先輩がいる企業かどうか気にしており、景気の良し悪しに関らず、出来るだけ継続的に採用してくれるよう依頼があった。また、地元企業の雇用への強い受け皿により少子化に対応できる県全体の活力が生まれる。
  - ・高卒者の離職原因について、連休の後に退職することがよくあるので上司は事前のケアが必要。先生の説明と仕事が違う、自分の考えていたものづくりと違う(一部分の仕事の繰り返しである)、といった理由が多く、学校側では社会人、職業人としての意識を持つよう指導に努めている。
  - ・職業高校では就職者が50~60%程度であり今後は70%ぐらいまで引き上げたい。

終わりに延澤副会長より本日の懇談会を機会に身近なプラスチック成形業界への学校、生徒の理解をお願いしたいとの閉会の挨拶があり、2時間半の懇談会が終了した。



— 羽場会長 挨拶 —



— (株)タカギセイコー 東新湊工場長 事例発表 —

## 事業報告

### 新入社員レベルアップ研修会

と き：平成 18 年 4 月 5 日～5 月 12 日

ところ：ポリテックセンター富山

・初心者向け射出成形・金型・電気制御を参加企業 14 社 44 名が研修しました。



### 雇用確保推進DVD制作・配布

と き：平成 18 年 4 月 5 日

配布先：県内高校・大学・専門学校・職安・会員企業  
・県内プラスチック産業紹介と各種成形ものづくり過程、業界の未来志向への取り組み、若手社員の声等にて収録され、今後、一層厳しくなる若手人材の採用確保の支援ツールとして県内学校等にものづくり教育への活用を要請、配布した。

### 射出成形技能検定予備講習会（学科）

と き：平成 18 年 6 月 24 日

ところ：ポリテックセンター富山

・前年より多い 88 名が出席して講師の林先生より学科試験問題の実践的講義がありました。



### 射出成形技能検定予備講習会（実技）

と き：平成 18 年 5 月 22 日～6 月 29 日

ところ：ポリテックセンター富山

・前年より 20 人以上も多い 118 名が受講されました。人材育成の高まりもあり、年々受講者が増えています。

### 会報編集委員会&総務委員会

と き：平成 18 年 7 月 4 日

ところ：富山技術交流センター

・編集委員会では 18 年度会報の編集方針、記事内容、部数・表紙デザイン等について打合わせた。  
・総務委員会では経営セミナーを 8 月 4 日 1 泊開催にて開催し、セミナー内容等について打合わせた。

### 技術委員会

と き：平成 18 年 7 月 13 日

ところ：富山技術交流センター

齊藤（技術担当）副会長、松島技術委員長の挨拶に続き、  
・技術講演として金沢工大 山部教授より「射出成形シュミレーションを用いた金型設計・試作の効率化」  
・経産省中部経産局 山森係長より「ものづくり基盤技術の高度化支援概要説明」を聴講、質疑のあと、技術委員会としての今後の産学官連携検討をおこない、次回は植物性樹脂の可能性について研究者講演を開催予定。

### 経営セミナー

と き：平成 18 年 8 月 3 日～4 日

ところ：呉羽ハイッ

延澤（総務担当）副会長、高野総務委員長よりの挨拶に続き、下記の講演と懇親会が開催された。  
・経営講演会 講師 株式会社セイコー社長 羽場光明氏 演題「これからの製造業と経営に求められるもの」  
・労務厚生説明会 県商工労働部課長補佐 愛場尋幸氏 テーマ「仕事と子育て両立支援について」  
・視察報告 株式会社セイコー技術開発部主任 手嶋成市氏 演題「シカゴ世界プラスチック展を視察して」

## 優良従業員表彰式

富山県プラスチック工業会優良従業員表彰が 5 月 10 日、富山第一ホテルで開催され、会員企業社員 22 名が表彰されました。

羽場会長より「ご承知のように原油高騰で業界は圧迫され、人件費高も含めて製造コストは高くついているが社員みなで知恵を出し合って経営・技術革新を図り、総合力を発揮していけば、日本の工業力は困難を乗り越えてゆくことが出来ます。

皆さんには自分自身のためにこれからも技を磨いて会社・業界の発展とともに社会貢献のためにがんばってください」との激励の言葉があった。

来賓を代表して富山県新世紀産業機構 宮本孝専務理事より祝辞があり、受表彰者へのお祝いと今後の活躍と共にプラスチック業界が県産業界に果たす役割と発展を期待する言葉があった。

表彰式終了後、総務委員会事業として健康講演会が開催され、延澤副会長から開会挨拶の後、受表彰者も出席して前田昭治富山健康増進センター所長による「生活習慣病とのたたかい」の演題で講演が行われ、生活習慣病の増大傾向と症状の説明、最近、問題化している内臓脂肪型の肥満による高血圧や高血糖で脳卒中や心筋梗塞になる危険性について、説明があり、血圧、血糖、中性脂肪で 2 項目が基準値を超える場合は要注意として指摘され、運動不足や栄養過多への注意があった。

受表彰者は右の通りです。



### 優良従業員表彰受表彰者

	氏名	企業名
1	井口 人志	(株)リッチェル
2	大野 義則	(株)日本成工
3	金谷 秋夫	(株)富山技研
4	悟道 律子	小林製薬ブラックス(株)
5	小松 滋	阪神化成工業(株)
6	斎藤 孝政	三光合成(株)
7	高田 実	トナミ精工(株)
8	高原 英哲	斎藤製作所(株)
9	高見 賢喜	滑川プラスチック工業(株)
10	多田 勝	(株)リッチェル
11	中島 久美子	五栄化学工業(株)
12	中坪 雄二	(株)トヨックス
13	西川 邦一	三協化成(株)
14	幅田 由美子	(株)富山技研
15	廣本 敏博	(株)タカギセイコー
16	牧野 武	阪神化成工業(株)
17	松崎 実	三光合成(株)
18	松澤 和朗	三協化成(株)
19	水口 信良	(株)トヨックス
20	山内 秀明	(株)大 樹
21	湯浅 治幸	太 平(株)
22	横山 和人	(株)タカギセイコー

## 懇親ボウリング大会 結果

平成 18 年 7 月 2 日(日) クアトロブーム小杉  
(参加企業 16 社 参加人員 125 名)

### 団体の部 (1チーム 5名 計10ゲーム)

	チーム名	企業名
優勝	(株)タカギセイコー 氷見A	(株)タカギセイコー 氷見事業所
準優勝	シロウマレディース	シロウマサイエンス(株)
3 位	(株)タカギセイコー 氷見B	(株)タカギセイコー 氷見事業所
4 位	紙 様	(株)タカギセイコー 新湊工場
5 位	三光合成(株) A	三光合成(株)

### 個人の部 (2ゲーム)

	チーム名	企業名
優勝	鏡塚 良一	(株)タカギセイコー 新湊工場
準優勝	能登 美紀子	シロウマサイエンス(株)
3 位	高辻 信一	(株)タカギセイコー 氷見事業所
4 位	紙屋 安久	(株)タカギセイコー 新湊工場
5 位	大口 芳信	(株)タカギセイコー 氷見事業所



新役員・新会員紹介

◆新常務理事

三協化成(株) 代表取締役社長 高畑 勉  
三晶 MEC(株) 代表取締役専務 今家 英明



高畑 勉



今家 英明



津幡 興二

◆新理事

イセ(株) 代表取締役社長 津幡 興二  
小林製薬ブラックス(株) 代表取締役社長 永野 淳  
(株)日本成工 代表取締役社長 米田 忠磨  
(株)YPK 代表取締役社長 三ヶ本修爾



永野 淳



米田 忠磨



三ヶ本修爾

◆新入会企業

富山大扇工業(株) 代表取締役社長 合田 昭男  
所在地 930-0401 中新川郡上市町広野新269

連携と協調

富山県主催「中小企業との対話」集会参加

平成18年6月7日(水)富山県民会館で開催され、県より藤木商工部長他、当会より齋藤副会長、延澤副会長他3名が出席し、全体で80名あまりが参加して藤木部長より、産業振興策、新産業の創出などについて説明があり、各業種経営者より要望があった。

当会の齋藤副会長が代表して発言があり、要旨は下記の通り。

「富山県におけるプラスチック産業は昭和初期に高岡市出身の高峰譲吉博士が日本にペークライトの基本

特許を持ち込み、富山県においても昭和10年頃よりペークライト漆器等の製造、戦後は紡績部品樹脂化、富山市の富川市長が有望産業として支援した経緯もあり、今日では全国的にも有数な位置付けにあるが富山大学や県立大学では高分子を学ぶ講座がないので産学連携での技術開発研究に取り組めないのが現状であり、県が設置にむけて働きかけて欲しい」と要請した。

県から、産学官連携は重要なので官民上げて招請も含めて対応していきたいとの回答があった。



《平成18年4月～6月会員景況感調査報告(全国版)》

総回答数248社

1. 数字はすべて前期比で、単純平均%で表示しております
2. 傾向がわかるように、値が50%以上の場合は網掛けを行っております

		全 体	団 体 別				製 品 別						昨年同 期比
			中 部 日 本	東 日 本	神 奈 川 県	西 日 本	日 用 品 ・ 雑 貨 類	容 器 包 装 ・ キ ャ ッ プ	電 気 ・ 電 子 ・ 通 信 部 品	自 動 車	住 宅 関 連	そ の 他	
① 生産高 売上高	増加	27.8	17.6	27.1	27.6	33.0	34.4	25.0	25.0	30.2	20.0	29.4	31.4
	横這	49.6	62.7	47.5	55.2	43.1	43.8	63.9	54.4	47.6	53.3	32.4	45.1
	減少	22.6	19.6	25.4	17.2	23.9	21.9	11.1	20.6	22.2	26.7	38.2	23.5
② 製品単価	上昇	6.0	3.9	5.1	0.0	9.2	9.4	5.6	1.5	7.9	6.7	8.8	5.9
	不変	71.8	60.8	69.5	72.4	78.0	84.4	83.3	69.1	54.0	86.7	79.4	51.0
	下降	22.2	35.3	25.4	27.6	12.8	6.3	11.1	29.4	38.1	6.7	11.8	43.1
③ 採 算	好転	9.3	3.9	6.8	3.4	14.7	6.3	5.6	11.8	11.1	6.7	8.8	5.9
	横這	54.0	54.9	55.9	62.1	50.5	43.8	50.0	63.2	58.7	40.0	47.1	54.9
	悪化	36.7	41.2	37.3	34.5	34.9	50.0	44.4	25.0	30.2	53.3	44.1	39.2
④ 所定外 労働時間	増加	14.9	13.7	16.9	6.9	16.5	12.5	11.1	16.2	19.0	13.3	11.8	15.7
	横這	68.5	76.5	67.8	58.6	67.9	65.6	77.8	70.6	58.7	73.3	73.5	70.6
	減少	16.5	9.8	15.3	34.5	15.6	21.9	11.1	13.2	22.2	13.3	14.7	13.7
⑤ 製品在庫	増加	15.3	9.8	8.5	17.2	21.1	15.6	8.3	20.6	11.1	40.0	8.8	7.8
	横這	69.0	76.5	78.0	58.6	63.3	71.9	86.1	63.2	69.8	26.7	76.5	70.6
	減少	15.7	13.7	13.6	24.1	15.6	12.5	5.6	16.2	19.0	33.3	14.7	21.6
⑥ 材 料 調達単価	上昇	73.4	86.3	69.5	65.5	71.6	84.4	86.1	66.2	68.3	86.7	67.6	94.1
	横這	26.2	13.7	30.5	31.0	28.4	15.6	13.9	33.8	31.7	13.3	29.4	5.9
	下落	0.4	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
⑦ 総合判断	好転	10.9	9.8	11.9	0.0	13.8	9.4	13.9	8.8	11.1	6.7	14.7	7.8
	横這	55.2	54.9	59.3	69.0	49.5	46.9	36.1	67.6	63.5	53.3	44.1	49.0
	悪化	33.9	35.3	28.8	31.0	36.7	43.8	50.0	23.5	25.4	40.0	41.2	43.1
⑧ 来期の 見通し	好転	15.7	11.8	22.0	6.9	16.5	9.4	11.1	22.1	19.0	6.7	11.8	5.9
	横這	62.1	66.7	59.3	72.4	58.7	59.4	61.1	64.7	65.1	60.0	55.9	68.6
	悪化	22.2	21.6	18.6	20.7	24.8	31.3	27.8	13.2	15.9	33.3	32.4	25.5

全日本プラスチック製品工業連合会  
《平成18年4月～6月会員企業景況感調査報告(全国版)》より引用

高分子学会北陸支部より

プラスチック成形企業の皆さんへ 参加・出展募集中

## 第2回ポリマーフォーラム北陸

2006年 第55回高分子討論会併設行事

目的：高分子学会北陸支部では、高分子学会の第55回高分子討論会（9/20-22、富山大学）の併設行事として第2回ポリマーフォーラム北陸（9/21）をおこないます。このフォーラムは、高分子討論会に参加する全国の皆さんに北陸の高分子関係の企業を紹介し、産学官連携の展開を支援するもので、討論会会期中に併設会場において北陸を中心とした高分子関連企業の展示とプレゼンテーションをおこないます。このフォーラムが、新しいポリマー製品の開発や全国的な大型プロジェクトの推進に繋がって行くことを期待します。

主催：高分子学会北陸支部

後援：富山県プラスチック工業会、富山県新世紀産業機構

日時：2006年9月21日（木）10：00～17：00

場所：富山大学第2体育館（第55回高分子討論会と併設）

内容：パネル発表と製品展示、研究紹介（北陸の企業を中心とした産学官）（50件程度）  
プレゼンテーション（希望企業、展示会場でおこないます）

ポリマーフォーラム北陸は「産・学・官」連携の推進力となります  
高分子討論会に参加される 全国の3,000人の最先端の研究者（研究者、学生）に  
アピールしてください。新しい展開ができます。

展示参加される企業の方は（申し込み締め切り8月21日）

参加費用：展示のみの場合 1ブース=1万5千円

プレゼンテーション（20分）と展示の場合 1ブース=4万円  
（パネルなど展示内容は、各社ご用意下さい）

会場に来られる方は（申し込み締め切り8月21日）

参加費用：無料

会場では：コーヒーなどを無料サービスします。抽選会をおこないます。

高分子討論会は学会員の行事のため、参加される場合は以下の手続きが必要です。

高分子学会入会金：1,000円、年会費：9,200円（個人正会員）

高分子討論会参加登録費：12,000円程度（個人正会員）

フォーラムの内容は、高分子学会北陸支部ホームページで見ることができます。

<http://carbo.nagaokaut.ac.jp/hokuriku/Site05/index.html>

連絡先：富山県工業技術センター 生活工学研究所  
水野 渡  
〒939-1503富山県南砺市岩武新35-1  
TEL:0763-22-2141 FAX:0763-22-4604  
e-mail: mizuno@itc.pref.toyama.jp

## 共創

### 「会報のルネサンス（再生）」

昨年、渡辺会長（リッチェル）から羽場会長（タカギセイコー）へとバトンタッチされ、工業会活動も大きく変革されつつあります。

今回、ルネサンス（ルネッサンス）と言うほど大袈裟な「再生」ではありませんが、事務局の努力により従来の会報「ぶらねっと」から今回発刊の19号より再生「PLANET」になります。

ルネサンスと言えば、最近小説、映画で話題になり、世界各国で放映中止など評価の内容が色々論じられた「ダ・ヴィンチ・コード」で、イタリア・ルネサンスが再び論じられております。

ルネサンスとは、14世紀から16世紀に西ヨーロッパで広まったRenaissance（再生の意味）、「古代」「中世」を抜き出し「近代」へと時代は進み、「近代」はルネサンス期に始まったと言われる所以は、「人間中心主義」の基本的考え方から広まった時代と言われています。ルネサンスの根本精神はヒューマンイズムであり、原義は「人間主義」と訳されています。

2001年10月に出版された日産自動車のカルロス・ゴーン氏の書「ルネッサンス」の中でも「人間こそ日産の強み」である。みずから高い目標を掲げ、自分で自分にプレッシャーをかけて駆り立てるほうが、他人からプレッシャーをかけられるより、人は遥かに大きな事をやってのける。」と人材の力量について強調され、偉大さも述べておられます。

当工業会「総務委員会」では今後も「企業は人（人財）なり」を再認識し、ルネサンスの原義である「人間尊重」を旗印に、個々の成長と発展に寄与できる委員会として、微力ながら尽力していく所存です。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

総務委員会委員長 高野修次

（編集委員会）

- 総務委員長 高野 修次  
（株リッチェル）
- 副委員長 門前 昌志  
（阪神化成工業株）
- ・ 喜多 進  
（株大樹）
  - ・ 松本 哲保  
（株磯井製作所）
  - ・ 西村 源信  
（三光合成株）

### ◆県外優良企業視察◆

平成18年4月21日～22日  
（関連記事8ページ）



（トヨタテクノミュージアム）



（ノリタケの森）

### 緑陰

そろそろ実る頃ぞと寄る農の軒端に並ぶ西瓜十余り  
いささかの小振りなれども甘く良き味に熟れしと西瓜の主  
包丁の刃先入るるや音たてて西瓜ひび割れ甘き香放つ

生著より今朝捕りたての鮎すくう跳ねる度ごと光を生まむ  
炎熱のつづくもひと日やと終え岳のビールを一気に啜る  
三段の岩間をくねり称名滝は飛沫噴かせて滝壺響動む

竹安 正太郎



### 未来への限らない挑戦

プラスチックの総合メーカー



ミユキ化成株式会社

代表取締役社長 延澤 泰明

〒939-0351 富山県射水市戸破針原53-14  
TEL(0766)56-9500 FAX(0766)56-9495  
URL: <http://www.miyuki-kasei.co.jp/>



お役に立ちたい  
あなたの暮らしに!

株式会社リッチェル

富山県水橋町136 〒939-0592  
TEL(076)478-2155 <http://www.richell.co.jp/>

（広告は、企業名のアイウエオ順で掲載しています）